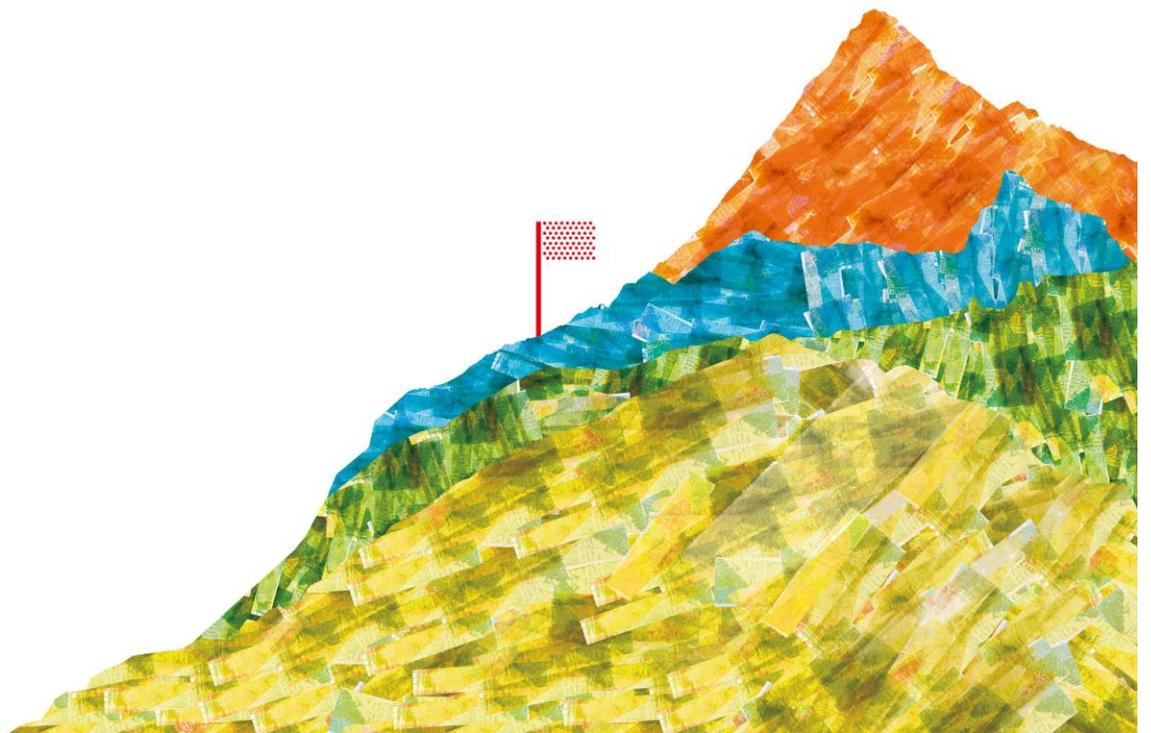


令和5年度 事業報告書

(いなばエリア)



社会福祉法人 こうほうえん

令和5年度事業報告書（いなば エリア）

1 令和5年度総括

収益改善活動

- ・4月～6月は新規事業としてスタートした地域密着型特定施設が、稼働率の低迷と介護度の低さで苦戦した
- ・老健、在宅事業等も年度当初は稼働の低迷に苦しんだが徹底した営業活動を展開した
- ・7月～8月は営業努力の成果が表れ始め、在宅事業の活性化が見られるようになってきた
- ・地域密着特定も関連する特定施設、いなばケアハウスと合わせて満床の状態が続いている
- ・デイサービスの再編の3か所の特徴の理解が進むごとに稼働率が上昇し、収支も昨年度の4か所の合計額を超えた。在宅トップ会で短時間・密な会議を行ったことも改善につながった
- ・湖東地域包括も7月に選定を受けた後、開設予定を半年繰り上げて10月1日に開設することができた
- ・相談室の統合により連携が図られ、入居施設をはじめ稼働率の上昇につながった
- ・ケアマネと相談室の連携超強化
ケアプランセンター、包括支援センター、相談支援室で合同会議を実施
事業所間のスムーズな連携と迅速な利用開始につながった
- ・まずやってみるシートを全事業所が作成して実践（200件以上）
- ・会議時間の短縮（いなばの会議は30分）
全員が発言して短時間で結論が出るようになってきた
議事に対する具体的意見を事前に入力・確認してから会議に臨むようになった
- ・現場のタイムスタディ実施
タイムスタディ：8事業（201名）を対象に実施
改善案42件、実行中26件、検討中16件

2 トピックス（新規事業、重点実施事業等（独自で実施している地域貢献活動含む））

1) 地域密着型特定施設新しいなば幸朋苑開設

- ・令和5年4月1日 ケアハウス新しいなば幸朋苑はまなすを開設し、地域密着型特定施設新しいなば幸朋苑（入居定員29名）事業開始した。従来型ケアハウスから地域密着型特定施設へサービス変更により、24時間体制で介護士・看護師・機能訓練指導員・相談員等、多職種連携して入居者の生活をサポートすることで、ご家族、ご利用者から「入居して良かった」「安心して生活できる」と感謝の言葉をいただいている。
- ・開設後、ご利用希望者も多く、満床である。ケアハウスいなば幸朋苑、特定施設入居者生活介護新しいなば幸朋苑等のサービスと連携し、サービスの必要な方が利用できるように調整している。

2) 鳥取湖東地域包括支援センター開設

- ・令和5年10月1日より、鳥取市からの委託を受けて「鳥取湖東地域包括支援センター」の運営を開始。介護予防支援としてのケアプラン作成の他、権利擁護をはじめ生活全般の困り

ごとに対応しており、地域とともに安心して暮らせる街づくりの活動を行っている。

- ・開設後、相談支援件数は増加しており、こうほうえんサービスとの調整や関連部署との連携で頼れる存在となるよう頑張っている。「先ず、やってみる」の姿勢を大切に、素早い対応を信条としており、利用者からも「すぐ来てもらえて助かった」「嬉しかった」といった声をいただいている。

3) 通所事業及び事務部門統合後の効果

・通所事業

事業所毎の役割や独自性を改善してきたことで、「対象者が分かりやすく、紹介しやすくなった」との意見が居宅支援事業所から多数聞かれた。デイサービスに療法士を配置したことも好評であった。事業全体で年間平均稼働率は+11.8%と大幅に改善し、延べ利用者数は+1242人、売り上げは約+1100万円となった。

・事務部門

同じ立場で直ぐに確認・相談ができるので疑問点や不安点などをタイムリーに共有できるようになった。離れているとサポート体制が難しかったが、同じ事務所内にあることで、協力しあえるようになった。

3 エリア目標の達成度合とその評価（戦略会議の資料等）

1) 利用開始までの時間と対応の分析

・事業所間の協力、紹介など

包括・ケアプランセンター・相談支援室で定期的な会議を持ち、それぞれの事業所で対応に困ること等を紹介し合い、お互いを知ることで繋がる取り組みを行った。その後も事業所間での協力、紹介を行っている。

・相談室としての取り組み

入居・住宅系相談員の組織図の見直しを行う。係長・主任・各相談員と指示系統の確認と主任を中心とした申込相談の集約等を行うことで責任の所在や、申込者の入居までの期間短縮へ繋げる活動を行うことができた。稼働率と売上については相談支援室全体として意識するため毎月の部会で確認を行っている。事業所ごとで行ってきた相談員業務を組織的に行うことで、相談員同士のフォロー体制や情報共有が図りやすくなった。

2) ICTによる（電子記録システム、SNS等）による業務効率化、データの活用

・眠りSCAN（見守りITC機器）インカム、SDフォン（ハンディナースコールシステム）

を、老健、新しいば特養、ケアハウスに導入。すべてのアプリをI-Phone端末に集約したことで業務の効率化に繋がっている。

- ・通所事業所においてワイズマンMeLL+（情報共有ソフト）を活用し情報の一元化に向け推進中。HP以外にもインスタグラムを開設し、身近な情報を発信している。

3) 職場の課題を出すことのできる仕組みの再構築

- ・職場の課題について主任会、係長会で抽出を行い、連携会議やエリア内調整会議などに議題提案できる流れが定着した。ケアの課題については、エリア内研修だけで補えない部分に対して次年度主任会が中心となった研修を計画し開催することとした。

- ・加算要件の確認などを事業所の管理者及び主任等が単独で行っていたが、相談支援室として確認に入るなどエリア内のフォロー体制が構築されている。

4) 地域貢献活動

- ・学習支援

近隣の中学校を対象に3年振りに再開した。11月5日（日）から3月3日（日）の毎週日曜日に実施。登録者17名、参加延人数130人が利用した。

終了後のアンケート結果から総合的に満足の回答が得られた。一部生徒と保護者より「高校生になっても参加したい」、「下の兄弟姉妹も参加させたい」、とお言葉があり今後の活動に活かしていく。

- ・出前講座

コロナ感染症5類移行後、8月から徐々に依頼が入り始める。実施回数9回、実施場所7カ所、参加延人数328名。施設近隣以外の区域からの依頼が多く幸朋苑を広く知っていただいていることを実感する。近隣への広報活動にも力を入れている。

4 入所系事業所（デイハウスは登録人数）の稼働率の推移（稼働率：小数点第1位）

事業所名	定員(人)	令和5年度(%)	令和4年度(%)	令和3年度(%)
介護老人保健施設 いなば幸朋苑	80	89.0	88.4	89.5
ユニット型介護老人保健施設 いなば幸朋苑	20	87.6	84.8	85.7
ケアハウスいなば幸朋苑	50	90.0	89.0	93.4
生活支援ハウス いなば幸朋苑	20	99.0	93.1	95.5
グループホームはまさか	9	98.0	99.5	94.5
介護老人福祉施設 新しいなば幸朋苑	50	98.2	97.7	99.0
地域密着型特定施設入居者 生活介護 新しいなば幸朋苑	29	95.8	79.9	93.8
特定施設入居者生活介護 新しいなば幸朋苑	36	98.5	96.5	98.3
介護老人福祉施設 にしまち幸朋苑	30	99.7	98.4	100
小規模多機能型居宅介護 デイハウスじゅんぼう	25	96.3	77.0	88.7

5 各エリアの取り組み実績

<p>年間行事一覧</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○いなば幸朋苑 ・ 7/17 開苑記念 ・ 9/15 敬老祝賀会 ○新しいなば幸朋苑 ・ 4/10 開苑記念 ・ 9/15 敬老祝賀会 ○にしまち幸朋苑 ・ 7/2 開苑記念 ・ 9/19 敬老祝賀会
<p>BCP 等訓練実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5/25 水害想定避難訓練 グループホームはまさか → いなば幸朋苑 参加者 12 人 ・ 6/5 水害想定避難訓練 デイハウスじゅんぷう → にしまち幸朋苑 参加者 21 人 ・ 11/29 水害想定避難訓練 鳥取市北デイサービスセンター 参加者 12 人 ・ 12/28 水害想定避難訓練（垂直避難） 新しいなば幸朋苑 参加者 19 人
<p>エリア内研修状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新人職員研修 ○エルダー会・新人体験発表 ○感染対策研修会（感染予防・手洗い） ○認知症・DCM 研修会 ○法令遵守・プライバシー保護研修会 ○身体拘束・高齢者虐待研修会 ○接遇・コミュニケーション研修会 ○看取り研修会 ○腰痛予防・ノーリフティング研修会 ○リスクマネジメント研修会
<p>エリア内会議、委員会活動</p>	<p>【月例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○連携会議 ○人財会議 ○エリア内調整会議 ○看護師会 ○教育研修委員会 ○苦情対策委員会 ○リスクマネジメント委員会 ○I T/広報誌作成委員会 ○定例会 <p>【定期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染対策委員会 ○苦情解決第三者委員会（2 回/年） ○ISO 委員会 ○身体拘束適正化委員会 ○褥瘡部会 ○ふれあいの橋の会 ○給食委員会
<p>委員会活動等の成果・実績・反省</p>	<p>○エリア内調整会議</p> <p>法人連絡会議からの指示事項、収支改善に向けた活動状況、委員会・事業所からの検討事項を確認。まずやってみるシートを事業所、部門別に作成し、取組の水平展開を行った。事業、職</p>

	<p>種、建屋を超えた縦横斜めの連携を深めるため、グループワークを実施している。次年度は、連携強化、組織作り、収支改善、品質向上を目標に戦略的に取り組む。</p> <p>○看護師会 毎月の誤薬件数・新型コロナをはじめとした感染症の発生状況を把握。発生した部署での対策を記載する欄を設け、具体的な対応策について報告し情報を共有した。日々の看護業務や感染対応での困難事例や困っていることの情報交換を行い、解決に向かうよう助言や意見交換を実施した。感染対応物品の管理表をもとに備蓄量を把握し、不足物品をスムーズに貸し借りできる仕組みづくりを実施。誤薬については「薬に関する項目の意味」を法人看護師会で検討し定義を変更した。R5 年度は誤薬件数：9 件。内訳→セットミス：0 件。与薬忘れ：4 件(0 レベル含む)。誤薬：5 件(うち人間違いは 2 件)。原因はどの事例でも服薬マニュアルや手順に沿って実施できていないことであった。来年度も誤薬ゼロへの取り組みを実施していく必要がある。</p> <p>○教育研修委員会 令和 5 年度研修参加職員数 (延べ) 1189 名 令和 4 年度研修参加職員数 (延べ) 876 名と比較し、約 36%増加している。研修形態が集合研修だけでなく、zoom 等によるオンライン研修が浸透したことが増加の要因と考えられる。エリア内研修においても、zoom 研修を併用し、現地外であっても参加できるような体制を整えることができた。</p> <p>○苦情対策委員会 令和 5 年度：苦情・ご意見 17 件 (令和 4 年度：22 件) と、前年度に比べ減少しているが、待遇に関しては、昨年度に比べ 3 件増えている。施設環境や交通・送迎に関するご意見も寄せられており、利用者満足の向上に向け、今後も再発防止策を検討し、同じご意見が寄せられないように取り組んでいく。</p> <p>○リスクマネジメント委員会 令和 5 年度の事故件数を集計 令和 4 年度に比べ、いなばエリアの傾向として、薬関連 21 件⇒25 件・ご意見 7 件⇒12 件と増加。表皮剥離 29 件⇒9 件・車両事故 15 件⇒9 件と減少傾向にある。転倒関連は 1 年間に平均して約 140 件起きている。令和 5 年度はレベル 5 が 2 件あったため、来期は 0 にできるよう予防処置件数を増やしていく。</p> <p>○ノーリフティング委員会</p>
--	--

	<p>毎月の稼働率推移を確認し、少しずつだが稼働率アップとなっている。ラウンド実施計画は感染症等により未実施の部署あり。来年度、ノーリフティング委員会独自での研修開催・ラウンド実施し、手技の再確認・徹底を行い、安心・安全な移乗を目指す。</p> <p>○IT/広報誌作成委員会 委員会メンバーを再編し、各拠点に担当委員を配置。拠点でのIT機器トラブル等に迅速な対応を行うこととした。DXの推進が進められる中でITスキルを更に高めることと、多数の人材育成が今後の課題である。</p> <p>○感染対策委員会 感染対策委員会のメンバーを再編し、指針等も新たに修正した。R5年度：コロナウィルス感染については(延べ人数)利用者136名。職員92名。インフルエンザ(延べ人数)利用者23名。職員15名。ノロウイルス(感染性胃腸炎)利用者0名。職員1名。上記集計数は看護師配属部署のみであり(看護師会と連動して動いていたため)、来年度は全部署の集計を行い感染動向の把握していく。R5年度の傾向として、感染発症の初動の動きが遅れると拡大しやすい傾向にあった。標準予防策の徹底を基本とし職員へ周知していく活動が引き続き重要と考える。R6年度はクラスター発生を予防していく取り組み(標準予防策の強化を図る取り組み)を実施していく。</p> <p>○苦情解決第三者委員会(3回/年) 苦情・ご意見について協議を行い、常に相手の気持ちを考えながら対応していくことの重要性、利用者・家族とコミュニケーションを図り、信頼関係が構築できるよう、対応していくように各事業所へ周知を図った。</p> <p>○ISO委員会 横断内部監査(R5.7)、更新審査(R5.10)内部監査(R6.2)を実施。コロナ5類移行後、利用者のニーズに合わせた活動が実施されているか、ケアプランが抽象的な内容となっていないか重点監査ポイントとして活動した。令和6年度は、ICT機器導入・ケア方法に合わせた、手順、要領、規定の見直しがなされている状態を目標に活動する。</p> <p>○虐待防止委員会 エリアと拠点の委員会を立ち上げ、定期的な開催を行った。</p>
--	--

6 人財状況

外部研修等講師派遣実績	○介護技能実習評価試験 試験評価 評価者	石井 陽介 中村 有希
外部役職就任状況	○鳥取県介護保険審査会専門調査員 ○鳥取県東部広域介護保険認定審査員 ○鳥取市認知症初期集中支援チーム員 ○鳥取県東部医師会裁定委員 ○鳥取県言語聴覚士会 理事 ○鳥取県小児保健協会 理事 ○東部保健医療圏地域保健医療協議会委員 ○鳥取県栄養士会 災害対策部運営委員 ○鳥取県健康づくり文化創造推進県民会議委員 ○鳥取県介護支援専門員連絡協議会東部支部理事	中野千香子 池本 圭子 岸 清志 岸 清志 赤峰 孝宏 森田 愛 森田 愛 森田 愛 小倉久美子 小倉久美子 山根 樹美
外部表彰受賞状況	○独立行政法人高齢・障がい休職者雇用支援機構理事長努力賞 ○鳥取市社会福祉協議会会長表彰	森下 紀夫 林 竜司

7 地域貢献実績（保育園含む）

実習受け入れ実績 延人数 319人	島根大学 鳥取看護大学 鳥取県看護協会 鳥取県立鳥取看護専門学校 鳥取県社会福祉協議会 鳥取県立産業人材育成センター倉吉校 鳥取市医療看護専門学校 鳥取社会福祉専門学校 YMCA 米子医療福祉専門学校
ボランティア受け入れ実績 延人数 111人	あんしん介護相談員（訪問相談） 個人・団体・社会福祉協議会紹介者 鳥取県立鳥取西高等学校 鳥取県立鳥取東高等学校
見学受け入れ実績 実人数 177人	利用希望者・家族・知人・ ケアマネジャー （あすなろ東・岩井あすなろ・鳥取南地域包括支援センター）

地域交流活動実績 1 実施回数 0 回 実人数 0 人 延人数 0 人	(事業所内又はこうほうえんが主催した交流事業) 実績なし
地域交流活動実績 2 実施回数 1 回 実人数 2 人 延人数 2 人	(地域の交流事業に利用者と共に参加したもの) 醇風地区公民館まつりに作品を展示
ボランティア・環境 活動等の実参加者数	(ボランティア・環境活動等に1回でも参加した職員数) 49人 / エリア職員数
ボランティア・環境 活動参加実績 1 投入実人数 49人	(清掃活動・消防団活動・地域防災活動等) 鳥取砂丘除草作業 いなば・新しいなば周辺除草作業
ボランティア・環境 活動参加実績 2 投入実人数 594人	(見守り活動・学校活動の手伝い等) 城北小学校資源回収 浜坂小学校はまっこパトロール 遷喬小学校学習発表会 中ノ郷中学校職場訪問 北中学校ワクワク北中 西中学校ワクワク西中
地域発信活動実績 (介護、看護の日、 イベント開催等)	介護の日イベント
地域発信活動実績(認 知症サポーター養成講 座、地域包括支援センタ ーのみの活動は除く)	講座回数：7回 養成者数：122人 資格者投入人数：10人
地域発信活動実績 (講習会、講演会の主催 及び参加等、地域包括支 援センターのみの活動は 除く)	賀露民児・福祉・保健関係機関連絡会 久松地区健康祭り 久松フレイルフォローアップ 湖東ブロック民生児童協議会 城北地区民生委員 城北ふらっとサロン (憩の家) 城北マルシェ せいきょう楽豊サロン 鳥取県立産業人材育成センター倉吉校 隣組福祉員 (浜坂・中ノ郷)

	城北公民館・遷喬公民館・浜坂公民館・美萩野公民館 老人クラブ（中ノ郷・山城町）
--	--

8 その他報告事項

事故の発生状況 (レベル3以上の事故)	こうほうえん事故レベル定義		年間件数
	レベル3	事故の為、医療機関での継続的な治療が必要になった場合	17
	レベル4	事故により、障がいが残った場合	0
	レベル5	事故が死因となった場合	2
虐待及び身体拘束の状況	(実人員、延日数、簡単な状況を記載) (ない場合の例)高齢者虐待防止法に定める「虐待の疑い」があると判断し、市町村へ通報した事案なし		
感染症の集団発生状況(保健所報告分)	(報告日、収束日、感染者数を記載) にしまち 短期入所生活介護：報告日 7/1、収束日 8/6、感染者数 9名 じゅんぷう：報告日 7/24、収束日 8/6、感染者数 9名 いなば ケアハウス：報告日 1/11、収束日 1/19 感染者数 16名 (利用者 14名・職員 2名) 老 健：2階報告日 2/11、終息日 3/3、感染者数 25名 3階報告日 2/12、終息日 3/9、感染者数 18名 ゆうゆう：報告日 7/18、収束日 7/31、感染者数 20名 デイケア：報告日 1/15、収束日 1/25、感染者数 17名 新しいなば 特 定：報告日 1/10 収束日 1/20 感染者数 12人 地域密着：報告日 1/8 収束日 1/9 感染者数 7人		
ご意見	設備に関する苦情	職員に関する苦情	感謝のご意見
	3件	14件	8件



社会福祉法人 こうほうえん

令和6年6月12日

社会福祉法人こうほうえん

〒684-0063 鳥取県境港市誠道町 2083 番地

法人本部事務局

〒683-0853 鳥取県米子市両三柳 1400

TEL (0859) 24-3111 FAX (0859) 24-3111
